

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「竹取物語 天人の迎へ」 問題①

① かかるほどに、宵② うち過ぎて、子の時ばかりに、家のあたり昼の明かさにも③ 過ぎて

④ 光りアたり。望月の明かさを、十⑤ 合はセイたるばかりウにて、⑥ ある人の毛の穴さへ⑦ 見ゆる

ほどエなり。大空より、人、雲に⑧ 乗りて⑨ 降り来て、地より五尺ばかり⑩ 上がりオたるほどに、

⑪ 立ち連ねカたり。内外キなる人の心ども、物に⑫ おそはくるケやうにて、あひ⑬ 戦はコむ心もな

かりサけり。からうじて⑭ 思ひ起こして、弓矢を⑮ とりたてシむと⑯ すれども、手に力もなく

⑰ なりて、⑱ 萎えかかりスたる中に、心さかしき者、⑲ 念じて⑳ 射セむとすれども、ほかざまへ

㉑ 行きッければ、㉒ 荒れも㉓ 戦はで、心地ただ㉔ 痴れに㉕ 痴れて、㉖ まもりあへタリ。

㉗ 立てチる人どもは、装束のきよなること、物にも㉘ 似ッず。㉙ 飛ぶ車一つ㉚ 具シテたり。

羅蓋㉓ さしトたり。その中に王とおぼしき人、家に、「造麻呂、まうで㉔ 来。」と㉕ 言ふに、

猛く㉖ 思ひナつる造麻呂も、物に㉗ 酔ヒニたる心地㉘ して、うつぶしに㉙ 伏セヌリ。㉚ いはく、

「なむぢ、をさなき人。いささかなる功德を、翁㉛ つくりネけるに㉜ よりて、なむぢが助けに

とて、片時のほどとて㉝ くだしノしを、そこらの年ごろ、そこらの黄金㉞ 賜ひて、身を㉟ 変へ

ハたるがヒごと㊱ なリフにヘたり。

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「竹取物語 天人の迎へ」 解答①

① かかるほどに、宵<sup>②</sup>うち過ぎて、子の時ばかりに、家のあたり昼の明かきにも<sup>③</sup>過ぎて

ラ四用 存続

サ下二用 存続

断定 ラ変体

ヤ下二体

④ 光り<sup>ア</sup>たり。望月の明かさを、十<sup>⑤</sup>合はせ<sup>イ</sup>たるばかり<sup>ウ</sup>にて、<sup>⑥</sup>ある人の毛の穴さへ<sup>⑦</sup>見ゆる

断定

ラ四用

カ変用

ラ四用

存続

ほど<sup>エ</sup>なり。大空より、人、雲に<sup>⑧</sup>乗りて<sup>⑨</sup>降り来て、地より五尺ばかり<sup>⑩</sup>上がり<sup>オ</sup>たるほどに、

ナ下二用

存続

存在

ハ四用

受身

比況

ハ四用

意志

⑪ 立ち連ね<sup>カ</sup>たり。内外<sup>キ</sup>なる人の心ども、物に<sup>⑫</sup>おそは<sup>ク</sup>るる<sup>ケ</sup>やうにて、あひ<sup>⑬</sup>戦は<sup>コ</sup>む心もな

過去

サ四用

タ下二用

意志

サ変已

かり<sup>サ</sup>けり。からうじて<sup>⑭</sup>思ひ起<sup>シ</sup>こして、弓矢を<sup>⑮</sup>とりたて<sup>シ</sup>むと<sup>⑯</sup>すれども、手に力もなく

ラ四用

ラ四用

存続

サ変用

ヤ上二用

意志

サ変已

⑰ なりて、<sup>⑱</sup>萎え<sup>カ</sup>かり<sup>ス</sup>たる中に、心さかしき者、<sup>⑲</sup>念じて<sup>⑳</sup>射<sup>セ</sup>むと<sup>㉑</sup>すれども、ほかざまへ

カ四用

過去

ラ下二用

ハ四用

ラ下二用

ラ下二用

ハ四用

存続

⑳ 行き<sup>ソ</sup>ければ、㉒荒れも㉓戦はで、心地ただ㉔痴れに㉕痴れて、㉖まもりあへ<sup>タ</sup>り。

タ四已

存続

ナ上二用

打消

バ四用

サ変用

存続

㉗ 立て<sup>チ</sup>る人どもは、装束のきよらなること、物にも<sup>㉘</sup>似<sup>ツ</sup>ず。㉙飛ぶ車一つ<sup>㉚</sup>具<sup>シ</sup>たり。

サ四用

存続

カ変命

ハ四用

羅蓋<sup>㉛</sup>さし<sup>ト</sup>たり。その中に王とおぼしき人、家に、「造麻呂、まうで<sup>㉜</sup>来。」と<sup>㉝</sup>言ふに、

ハ四用

完了

ハ四用

完了

サ変用

サ四已

完了

ハ四用

猛く<sup>㉞</sup>思ひ<sup>ナ</sup>つる造麻呂も、物に<sup>㉟</sup>酔ひ<sup>ニ</sup>たる心地<sup>㊱</sup>して、うつぶしに<sup>㊲</sup>伏せ<sup>ヌ</sup>り。㊳いはく、

ラ四用

過去

ラ四用

「なむぢ、をさなき人。いささかなる功德を、翁<sup>㊴</sup>つくり<sup>ネ</sup>けるに<sup>㊵</sup>よりて、なむぢが助けに

サ四用

過去

ハ四用

ハ下二用

とて、片時のほどとて<sup>㊶</sup>くだし<sup>ノ</sup>しを、そこらの年ごろ、そこらの黄金<sup>㊷</sup>賜<sup>ヒ</sup>て、身を<sup>㊸</sup>変へ

完了

比況

ラ四用

完了

存続

へたるが<sup>ヒ</sup>ごと<sup>㊹</sup>なり<sup>フ</sup>に<sup>㊺</sup>へたり。